

「新たな移動手段確保推進事業」の進捗状況等について

今年度実施しております「新たな移動手段確保推進事業」におきまして、以下のとおり進捗状況等を報告いたします。

1 地域ヒアリング

(1) 内容

「駅やバス停留所から距離のある地域」を対象に移動実態の現状把握

(2) 対象地域（別紙1参照）

地域要望、一定規模の居住地、丘陵地などの地形的要因から選定

→榎島西・東（①・②）、木幡南山（④）、山間地域（白川（⑧）・笠取（⑨））

(3) ヒアリング対象者

地域住民（地域団体・代表者等）、地域包括支援センター

(4) ヒアリング期間

令和4年5月～6月

(5) ヒアリング結果（別紙2「地域ヒアリング結果整理表」参照）

- ・主な移動手段は自家用車等であること、公共交通としての需要が非常に少ないことから、「持続可能な新規公共交通の導入」は難しい
- ・宇治市公共交通体系基本計画にタクシーの効果的な活用方法の検討を示しているが、現時点ではプライバシー等の懸念があるため賛同する方は少なく、「タクシー混乗の仕組みの導入」は難しい
- ・地域の高齢者の中には買い物や通院などの移動が難しい方もいる

2 懇話会（別紙3「地域懇話会」参照）

（1）タイトル

持続可能な公共交通に向けた懇話会～移動ニーズが変化する中での公共交通～

（2）開催日時

令和4年9月27日（火）10時

（3）内容

令和3年7月に策定した「宇治市公共交通体系基本計画」を踏まえた持続可能な公共交通について、学識経験者による意見交換を実施

（4）実施地域

槇島西①（槇島紫ヶ丘地域）

- ・移動手段に対する地域要望が一定数あり
- ・地域で活動している組織があり、地域包括支援センターなどとの連携のもと取り組みを進めている
- ・過去に移動手段の確保に対する取り組み実績あり（課題共有が図れる）

3 地域との意見交換会（別紙4「意見交換会」参照）

（1）内容

懇話会終了後、学識経験者と地域住民との意見交換会を実施

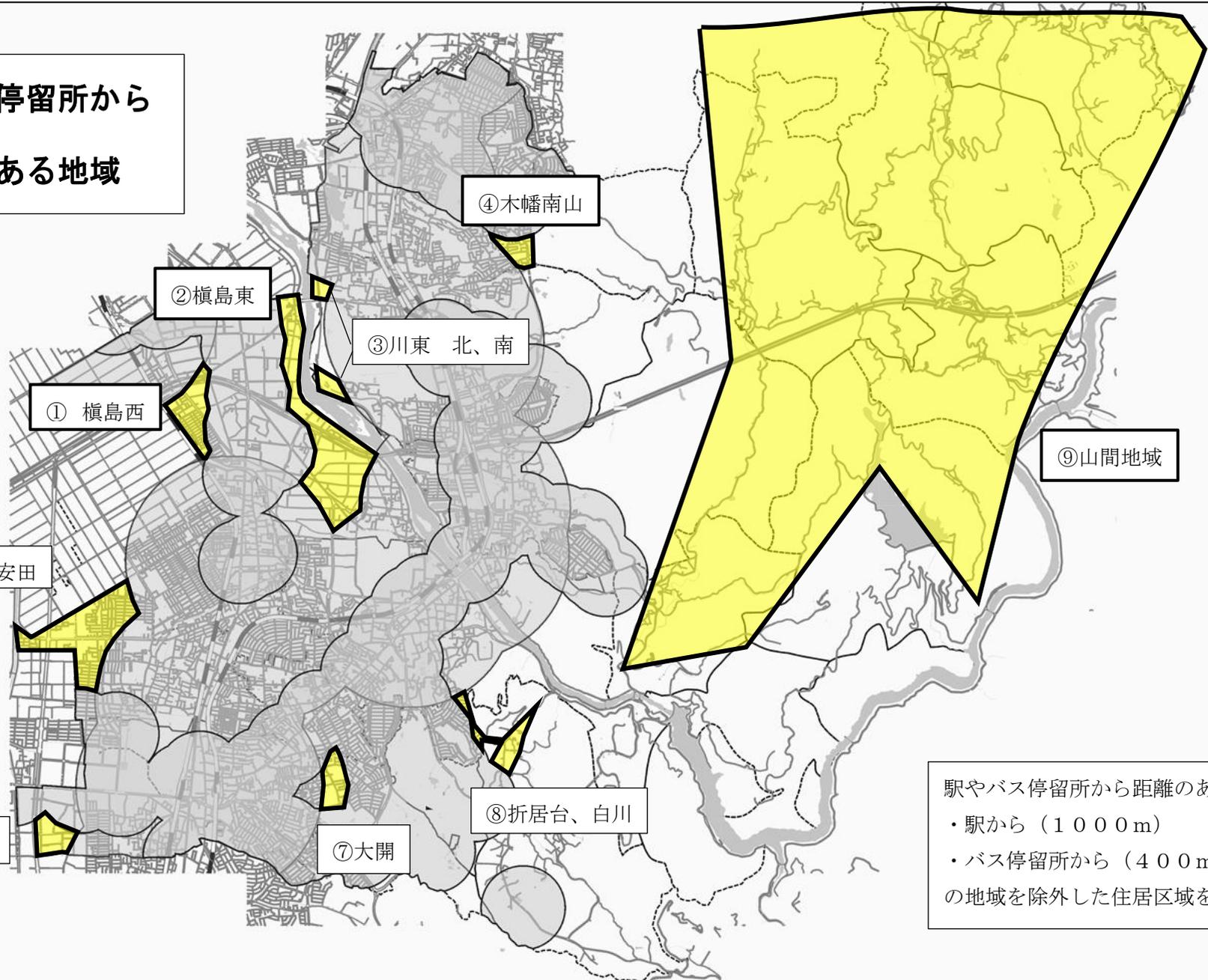
（2）今後

編集した懇話会の映像を基に他の地域で意見交換会を実施予定

4 今後の方針

- ・地域ヒアリングの結果、買い物や通院のための移動手段のニーズが高いこと、その移動ニーズは高齢者が多いことから、公共交通に限らない移動手段も含めて地域、関係機関とともに検討を進める
- ・自家用車に乗り続ける高齢者もいることから、交通安全教室を開催し、安全運転の継続につなげる

駅やバス停留所から
距離のある地域



駅やバス停留所から距離のある地域
・ 駅から (1000m)
・ バス停留所から (400m)
の地域を除外した住居区域を指す

		市街地（平地）		市街地（丘陵地）	山間地域	
					市街化調整区域	都市計画区域外
		榎島西（①）	榎島東（②）	木幡南山（④）	白川（⑧）	西笠取（⑨）
高齢化率 (R3.10.1)	65歳以上 (市全体29.8%)	32.2%	33.0%	27.1%	43.3%	43.0%
	75歳以上 (市全体15.3%)	17.0%	17.1%	12.5%	28.7%	20.9%
移動手段	利用頻度 高い ↓ 低い	車	車	車	車	車
		自転車	自転車	家族送迎	家族送迎	家族・近隣送迎
		家族送迎	家族送迎	タクシー	タクシー	タクシー
		タクシー	タクシー	-	-	-
その他		送迎車両 (宇治徳洲会病院)	-	-	送迎車両 (社会福祉法人 不動園)	送迎車両 (宇治病院)
買い物	行先	万代宇治榎島店 マツモト宇治小倉店	万代宇治樋ノ尻店 フレンドマート宇治店	フレンドマート御蔵山店 新鮮激安市場! 木幡店 フレスコ木幡店	アプロ宇治店 フレンドマートG宇治市役 所前店	アルプラザ宇治東
	移動販売(※) (地域利用)	とくし丸	とくし丸	とくし丸	とくし丸、ローソン	-
通院	行先	個人が通院される病院までは地域でも把握されていないが、高齢者の移動ニーズとして通院の頻度は高い				
ヒアリング結果	現状					
	・ほとんどの世帯が自家用車で移動		・ほとんどの世帯が自家用車で移動		・ほとんどの世帯が自家用車で移動	・ほとんどの世帯が自家用車で移動
	・榎島西では、地域包括支援センターの協力もあり、R4年度から区内を徳洲会病院の送迎車両が運行開始		・丘陵地のため、自転車や歩行器具の利用が困難な場所が多い		・移動が難しい世帯は家族が送迎対応する場合あり	・移動が難しい世帯は市街地に住む家族や近隣住民が送迎する場合あり
	これまでの取り組み					
	・過去にのりあい交通事業を検討したが実現しなかった地域。現在も需要が低く、地元負担金の確保が困難な状況は変わらない					・3年前に移動手段の確保を地域内で議論。当時は自家用車で移動できるため検討は時期尚早と判断された
	地域の声					
	・移動目的は買い物や通院が主で、その移動手段に困っている		・移動目的は買い物や通院が主で、その移動手段に困っている		・移動目的は買い物や通院が主で、その移動手段に困っている	・移動目的は買い物や通院が主で、その移動手段に困っている
	・病院送迎車両活用を希望					・病院送迎車両活用を希望
	・高齢者へのタクシーチケット配付等を希望				・集落から離れている白川峠のバス停移設を要望（大型バスの安全は駐車場がなく実現せず）	・住民は病院送迎車両の停留所まで歩くことには苦にならない人が多い
	・タクシー混乗はプライバシーへの懸念や、自己の都合による移動と合わないため、ほとんど行わない		・タクシー混乗はプライバシーへの懸念や、自己の都合による移動と合わないため、ほとんど行わない		・タクシー混乗はプライバシーへの懸念や、自己の都合による移動と合わないため、ほとんど行わない	・タクシー混乗はプライバシーへの懸念や、自己の都合による移動と合わないため、ほとんど行わない
公共交通導入可能性	・バス利用の需要は低く、個別移動の支援を望まれており、持続可能な公共交通導入の可能性は低い		・高齢化率も低く、現時点では新たな移動手段導入に向けた検討の意識は低い			・バス利用の需要は低く、個別移動の支援を望まれており、持続可能な公共交通導入の可能性は低い
	・平地であり、買物施設や駅まで自転車で行けるため、自転車利用も多い				・近隣住民による送迎は事故時のトラブルへの不安からほとんどない	
	・しかし、高齢化が進んでおり買い物、通院などへの移動の難しい方が存在		・今後高齢化が進むと単独での外出が困難となる状況が考えられる			・高齢世帯が多いことから、新たな移動手段確保の必要性を認識されている

※とくし丸：「移動スーパー」 軽トラックで地域に出向き食料品や生活雑貨を販売

※ローソン：ローソン宇治小倉堀池店が実施されている移動販売

●地域懇話会（9月27日開催：槇島町紫ヶ丘集会所）

タイトル：「持続可能な公共交通に向けた懇話会～移動ニーズが変化する中での公共交通～」

学識経験者：龍谷大学文学部教授 井上 学 氏（コーディネーター）

近畿大学経営学部教授 高橋 愛典 氏（パネリスト）

近畿大学経営学部准教授 毛海 千佳子 氏（パネリスト）

◆話題提供（井上氏）

- ・令和3年7月策定の「宇治市公共交通体系基本計画」について
- ・宇治市の公共交通の特徴について
- ・公共交通とはどういったものかについて

◆学識経験者による意見交換

テーマ①：公共交通における需要と供給の考え方

意見交換の論点：運賃・便数設定の考え方

：車の利便性と維持費の考え方

：税投入とサービス向上の考え方

【運賃・便数設定の考え方】

- ・宇治市は地方都市と比べて日常的な移動に関しては非常に恵まれている
- ・実際に増便や運賃を安くしても乗る人が増えるかはわからない
- ・増便は、1時間に1本のところは30分に1本、30分に1本のところは20分に1本ほしくなり、増便の効果は低いと想定される
- ・負担にならない運賃を求めるのは、買い物や病院が目的であり、移動が目的ではないため
- ・これまでは運賃が移動手段を選ぶ決め手されていたが、実は全く影響をしないという研究があったことから、運賃に注力しすぎると利便性の高い移動サービスはできない

【車の利便性と維持費の考え方】

- ・車は購入代金等を含めると、維持のために1日当たり2,000円～5,000円かかる

【税投入とサービス向上の考え方】

- ・電車やバスを増便するより、電車やバスを待つ環境に公的な支援を求める方がよい

テーマ②：駅やバス停までの移動が困難な方に対する考え方

意見交換の論点：公共交通がもたらす外出機会創出、健康増進の考え方

：乗り合うことによる運賃負担軽減の考え方

：車を手放した際の将来不安に対する考え方

：地域の取組によるコミュニティ活性化の考え方

【公共交通がもたらす外出機会創出、健康増進の考え方】

- ・自家用車の利用は公共交通の利用に比べて歩く機会が減少するため、地方では公共交通が発達している都心部と比べて、肥満度が高いという結果も出ている
- ・自家用車よりも公共交通、徒歩、自転車の方が幸福感は高いという研究結果がある

【乗り合うことによる運賃負担軽減の考え方】

- ・タクシーの乗り合いについては制度が変わってきており、設定しやすくなっている

【車を手放した際の将来不安に対する考え方】

- ・公共交通への乗車は自家用車の運転より大変であり、自家用車に乗れなくなったら公共交通に乗れない

【地域の取組によるコミュニティ活性化の考え方】

- ・地域全体の困りごとの一つとして公共交通を考えることで地域に最適な交通手段が選べる

●榎島紫ヶ丘地域における意見交換会**◆懇話会終了後の学識経験者と住民との意見交換****【住民意見】**

- ・シニア世代はタクシーを安く乗れるにしてほしい
- ・市民の移動手段の確保は、市民が努力するだけでなく、行政が公共交通として確保する仕組みを整えてほしい
- ・平和堂、イオンなどの大型店と協力し月に1・2回マイクロバスを走らすなどしてほしい
- ・免許証返納後の移動が不安、公共交通が整備されればありがたい
- ・徳洲会病院の送迎バスを利用して市役所方面などに行きたい
- ・宇治市は公共交通に全然お金を使っていない
- ・高齢になり自転車、車、バイクに乗れない、長い距離が歩けない、バス停や駅まで行けないという状況のとき、買物や病院、市役所への移動手段をどうすればいいか

【学識経験者意見】

- ・公共交通が1時間に1本ない地域もあり、それに比べると宇治市は恵まれた地域
- ・自転車や自動車で移動できる元気な方はバスが走っても乗らない
- ・動けない方の移動は公共交通ではなく福祉である
- ・市役所など、行く頻度の高い方と低い方がいるような場合、乗り合いで行くことは困難
- ・公共交通を走らせるよりコミセンの機能拡充、病院送迎車両や福祉有償運送の方が現実的
- ・住民自らがスーパーに設置されている意見箱を活用し、要望するのが良いのではないか